



庭園を通し、大気へと連がる、
空間美学をまなぶ。

庭園倶楽部

TEIEN CLUB

2022

2022年度 会員募集
2022年10月～11月 日曜日午後
「江戸東京を歩く」
一日庭園見学 全3回
全体構成十案内人Ⅱ 進士五十八 (東京農業大学元学長、福井県立大学前学長、ランドスケープ・アーキテクト)
服部勉 (東京農業大学地域環境科学部長補佐、造園科学科教授)
栗野隆 (東京農業大学造園科学科教授)

ワタリウム美術館「庭園倶楽部」
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6
Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714
Email: official@watarium.co.jp
http://www.watarium.co.jp/

江戸東京を歩く —— 浜御苑・日比谷公園・古河邸園 / 一日見学 全3回 日曜午後

全体構成 = 進士五十八 (しんじいそや (東京農業大学元学長、福井県立大学前学長、ランドスケープ・アーキテクト))

コロナフリーは、オープンエアの緑のなかが一番。十数年まえ東京観光財団が『大江戸東京の歩き方』(ダイヤモンド社、2006)を出した。シティガイド検定テキストでもあって幅広い知識が得られる。ただ近年の再開発ラッシュで、都心は激変。だからこそ緑地の価値はより高まる。「都市空間のクオリティが何処にあるか」わが目で改めて再考したい。江戸・明治・大正の先人の深さ・豊かさ・心意気を再発見できるだろう。

① 10月9日(日)2022年 —— 案内人 = 進士五十八

日比谷公園 — 本多静六の和魂洋才

卒論調査につきあって、と初デート。しっかり考現学マンウオッチングで占有空間特性を研究。学長賞と公園協会賞ダブル受賞(1969)。研究室を挙げて「日比谷総合研究(全8報、1983)」を建築学会で報告。『日比谷公園』(鹿島出版会、2011)で、今和次郎賞受賞(2012)。テレ東・美の巨人「都会のオアシス迷宮の森」出演(2021)。1903年開園の日比谷は、文明開化が求める西洋の受容の象徴。3つの洋:洋楽、洋食、洋花の新世界であるが、江戸遺産を継承活用。和のテイストを含めた幕の内弁当のごとく多面的機能を具現化した近代都市公園モデルだ。本多静六設計、開園(1903)から120年の日比谷公園生活史は波乱万丈。国葬会場、メーデー・焼き打事件、震災、ルンペン、アベック、学生運動松本楼焼失、年越派遣村…。16haの空間多様性は歩きながら案内したい。



日比谷公園
本多静六林学博士設計案 明治34年



日比谷公園 雲形池、鶴の噴水

進士五十八 しんじいそや

1944年京都生まれ。東京農業大学卒業。農学博士、造園学・環境学が専門。日本学術会議会員、東京農業大学長、日本造園学会長、日本都市計画学会長、日本生活学会長、福井県立大学長など歴任。現在、福井県政策参与。著書に『アメニティ・デザイン』『風景デザイン』『農の時代』『ルール・ランドスケープ・デザインの手法』(以上、学芸出版社)、『グリーン・エコライフ』(小学館)、『日比谷公園』(鹿島出版会)、『日本の庭園』(中公新書)、『進士五十八と22人のランドスケープ・アーキテクト』『進士五十八の風景美学』(以上、マルモ出版)ほか。内閣みどりの学術賞(2015)、紫綬褒章(2007)、日本農学賞・読売農学賞(2006)、日本造園学会賞(1989、2012、2016)他多数。

② 10月16日(日) —— ゲスト案内人 = 服部勉

史料で学ぶ「浜離宮恩賜庭園の魅力」: 15時間にも及ぶ宮様の重陽の宴!

時は徳川12代将軍家慶の治世、天保13年(1842)9月9日重陽の節句。お客様は京よりお越しの知恩院宮様。重陽当日の利用を中心に、当時の史料を紐解きながら将軍、大奥の女性、幕臣がどのようにこの庭園を楽しんでいたのかを読み解きます。秋の一日、7万5000坪の大庭園をジックリ歩いて、ベイエリアの元祖、回遊式庭園に込められた大名庭園の意味、東京湾臨海部の立地を活かしたアイデアなど、江戸・東京の庭園の素晴らしさを一緒に体感してみましょ。



臨海部の築山
防潮堤の機能も担っていた?



汐留再開発前の状況
ベイエリアの元祖も今は昔

服部勉 はっとりつとむ

東京都足立区出身、江戸川区在住。東京農業大学地域環境科学部長補佐、造園科学科教授。東京・秋田・宮城などの歴史的庭園の復原・整備、東京・逗子市などの文化財保護、地元・江戸川区などの景観整備、花とみどりの地域づくりの普及啓発活動など。

③ 11月13日(日) —— ゲスト案内人 = 栗野隆

旧古河庭園 — J. コンドルと植治が生み出した和と洋の融合世界

庭園倶楽部2022最終回では大正期に完成した西ヶ原の旧古河庭園を歩く。日本近代の洋風庭園は、明治前期の稚拙な洋風模倣から始まり、明治中期に折衷式(芝庭)へと変遷し、明治後期から大正期に純洋風へと革新した。面白いのは和庭と洋庭を具備した和洋並置式とし、洋式に一本化することを時の日本人は選択しなかった点だった。近代を代表する建築家・コンドルと造園家・植治による旧古河庭園に、和と洋の稀有なる調和を確かめることとした。



台地上に洋館を構え、斜面をテラス状に造成したバラ園 (栗野撮影)



崖線下に設けられた回遊式の池泉庭園 (栗野撮影)

栗野隆 あわのたかし

造園史家。1976年兵庫県生まれ。東京農業大学造園学卒業、同大学院修了。奈良文化財研究所研究員を経て現在東京農業大学造園科学科教授、博士(造園学)。専門は造園史・匠匠論、文化財庭園保存修復。

申込方法 | 参加ご希望の方は、件名「庭園倶楽部2022会員」申込とし、お名前(フリガナ)/連絡先(ご住所・電話番号・FAX・Email)/ご職業/会員番号(会員の方のみ)をご記入の上、E-mail:watarium3@gmail.com または Fax03-3405-7714 にてお申込ください。なお、同時に下記の口座にお振込ください。ご入金後、期日までに、参加のご案内をお送りいたします。定員になり次第、〆切らせていただきます。

特典 | 庭園倶楽部会員は、期間中、ワタリウム美術館への入館が無料になります。

会費 | 入会金 ¥3000 (ワタリウム美術館サポート会員の方、庭園倶楽部2020よりご継続会員の方は 無料。artpass 会員の方は ¥1500)

参加費 | ¥9000 一日庭園見学3回

振込先 | 三井住友銀行 青山支店(普通口座) 1621750 名義) 庭園倶楽部

